（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	COCOはびきの			
○保護者評価実施期間	2025年3月24日	～	2025年4月24日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）		（回答者数）	
○従業者評価実施期間	2025年3月24日	～	2025年4月24日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	19	（回答者数）	19
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の興味・関心や通所に対する楽しみ	社会の状況（例：デジタル化）や成長段階に合わせたプログラムを定期的に導入し、その都度、coco通信や面談、 送迎時等で保護者様に説明を行っている。	興味の持ちやすい題材（例：タブレット）を扱っているため、「遊び」だけでなく、「学び」になるように心がけ、将来に繋げるために「活用」ができるように段階的に取り組んでいく。
2	小学校免許、保育士、中学・高校保健体育教員免許のいずれかを職員の９割が所得しており、アスリート契約でスポーツのプロ選手が所属しているため、基礎から応用まで幅広く、本格的な運動療育が段階的に行える。	楽しんで体を動かしながら、運動能力の基盤づくり ↓ 運動を通して仲間と協力したり、コミュニケーションを取る ↓ 学んだ・経験したことを実戦形式で取り組む	運動を通して学んだこと（体の使い方や他者とのコミュニケーション、尊重する気持ちなど）を、他事業所との交流会や、今後の学校生活・社会生活に活用できるように、継続的に取り組み、他者との交流の機会の増加も視野に入れる。
3	満足度（保護者様・児童）	連絡帳で詳しく様子を書き、送迎時にも様子や今後について話している。 毎日、支援内容や子供の様子についての写真を保護者様に送ることで、より詳しくわかってもらえるとともに、お子様とのコミュニケーションにも役立ててもらっている。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングの実施	保護者様参加のプログラムの参加率が低いことや、要望等がなく参加人数の期待が薄いため、行っていない。	保護者や地域との交流を深められるよう計画したい。
2	交流会等の参加率（周知率）の低さ 地域とのサッカー以外での交流	年間計画でなく、保護者様への連絡が前の月か前々の月になっている。 祝日の開催が多く、会場が少し遠いため、車での参加が必須になる。	災害時により安心安全な対応ができるよう 定期的な訓練を実施し、職員にもお子様にも 周知徹底できるよう努力していきたい。
3	現在の交流会が、サッカーでの交流がメインになっている。	サッカー等の運動療育がメインであるとともに、子ども対自身が、スポーツを通しての方がコミュニケーションがとりやすいと感じていたため。 コロナウイルス以後は、地域清掃や高齢者サービスとの交流が控えめになっている。	